



和泉観ボラだより



第7号

2013. 7. 31 発行

和泉観光ボランティアクラブ 〒594-0041 和泉市いぶき野五丁目1-1 泉北高速鉄道と泉中央駅構内
TEL/FAX: 0725(56)5200 E-mail bwz11423@nifty.com <http://blog.goo.ne.jp/kankou-izumi/>

新しい駅舎と歴史ある商店街と鉄道の歴史をたどってみませんか？

JR 阪和線・和泉府中駅の歴史

1929年（昭和4年）7月、阪和電気鉄道（京阪電気鉄道や大阪商船などが出資）開業。天王寺～和泉府中間の運行で、和泉府中駅が当時の終着駅であったという。南海鉄道の保有する南海本線で独占されていた阪和間の輸送に切り込むため建設されたと言われている。そのため、阪和と南海の間ではしばらく激しい乗客獲得競争が繰り広げられたが、1940年（昭和15年）に阪和電気鉄道は南海に合併されて「南海鉄道・山手線」となり、さらに1944年（昭和19年）に阪和間の直通路線を有していなかった国鉄（運輸通信省）に戦時買収され、国鉄「阪和線」になったという。



日本最速を記録していた？

なんと、1931年（昭和7年）に天王寺～和歌山間（当時の日本国有鉄道、通称・国鉄）に超特急（定線間距離61.2キロを45分間ノンストップでの走行で、当時の国内最速を記録）が走っていた。1959年（昭和34年）に工事着工され、1964年（昭和39年）開業の新幹線「こだま」が登場迄の間、日本鉄道史上伝統的存在だったそうだ。



コダイくん

和泉市イメージキャラクター



ロマンちゃん

阪和線沿線のとある風景「追憶のかなたに…」

阪和線に山中溪（やまなかだに）という名の駅があります。古老から「子どもたちが夏になると、きれいな川でよう泳いどった。温泉もあってな、結構にぎわってたよ。春、桜の季節、そりゃきれいに咲いてて、店も結構にぎわった。電車の窓から眺める景色は四季折々風情があったよ。駅から銀河峰の山登りもした。海が見えたりして嬉しかったよ。」というお話を伺いました。そんな楽しい場所があったのかと下車してみました。それは遠い追憶のかなたの話でした。でも心の中に残る話として嬉しく思い、駅を後にしました。阪和線の歴史のなかに、素敵な埋もれた話がありました。山中溪駅そのものが桜の名所になっており、鉄道マニアの撮影スポットになっています。

新しい和泉府中駅前を散策♪



和泉府中駅が 2013 年（平成 25 年）5 月に新しい駅舎になりました。JR 和泉府中駅とその境界の風景が変わりつつあるなか、新しい和泉府中駅周辺を散策してみませんか？

一度、新しい和泉府中駅の駅舎の屋根をじっくり眺めてください。「あれ？この形はどこかで見たことあるような気がするな…？」「思い出せないが、どこだっけ？」

駅舎周辺はまだまだ開発途中です。バスターミナルが出来上がり、歴史のある商店街も新しい駅舎と来年の春には陸橋で繋がります…日々どのように変わるのでしょう。

（答え：弥生史跡高殿の屋根を模したとされています。）

地場 地産地消とエコを考える「じーばーのお店」訪問

JR 和泉府中駅から 2～3 分、ロードインいずみの中にある「じーばー（地場）のお店」のメニューは日替わりの定食とお弁当、それにコーヒーとジュース。お店の外には本日の日替わり定食のメニューが手書きで書かれてあり、店内には 2 週間分のメニュー（献立表）がおいてある。ドアを開けると、テーブルが 6 卓とカウンターがあり、「食事？」「何人？」と元気の良い声が響く。空いているときはゆったり、混んでいるときは相席になることもある。席に着き、前払いなので 500 円玉をテーブルに置くと、5 分も経たないうちに食事が運ばれてきた。（食事は 11 時～完売まで）



ほかほかの温かな日替わり定食はこだわりの地元生産の食材中心で野菜がいっぱい。（お米と野菜は地産地消）。ここは、公益社団法人 和泉市シルバー人材センターの店で、今年で 5 年目になるそうだ。1 日 60 食（定食・弁当合計）全て手作り、化学調味料は使わず、味噌汁のだしは煮干からとっている。食の安全と健康が気になる現代社会において、このお店の野菜の新鮮さと種類の多さはとても魅力である。

取材をさせて戴いた日に、おばちゃんばかりの店内に白シャツ・黒ズボンの学生が入ってきた。年配の女性との相席になり、少し戸惑ったようにも見えたが、「ここへすわり」「ゆっくりしてや、お茶入れよか？」と気さくに自然に声をかけてくれるので、ほんわか気分でお腹も満たされたようだ。

※ 店内には ECO 商品（竹酢液・石鹼他）や和泉市シルバー会員手作りの小物の展示・販売もしている。お店の入り口で新鮮な野菜を販売している日もある。

地場
じーばーのお店

0725(40)0468

和泉市府中町 1-3-17（和泉府中駅前商店街内）

営業時間午前 10 時～午後 2 時 30 分（定休日 日曜・祝日）



みなさんが写した和泉市の1枚



撮影者名 Osaka とらさん

和泉市内の桜の名所、黒鳥山公園には遊歩道とハスの花が見事なスポットがあります。コミュニティバス「めぐ〜る」阪和線ルート of 山荘バス停または山荘・和泉中央ルート of 山荘バス停か黒鳥山公園バス停下車が便利です。コミュニティバスのバス停は JR 阪和線沿線には「和泉府中駅前」「信太山駅前」「北信太駅筋」、泉北高速鉄道沿線には「和泉中央駅」「光明池駅筋」のバス停があります。

「和泉観ボラだより」を読んでくださっているみなさまからの写真投稿 (E-mail にて) をお待ちしております。掲載されましても景品等はありませんが、素敵な風景、心の残る情景などをおすそわけいただければうれしく思います。撮影場所・アクセスなど説明を添えて投稿ください。またお名前掲載にあたりまして、本名・ニックネーム・イニシャルなどご希望に応じます。投稿の際にその旨お知らせください。投稿にあたりましては、個人情報の記入は不要です。また個人撮影のオリジナル作品に限ります。お送りいただきました写真は編集委員会にて1枚選出させていただきます。観ボラだよりにて毎号1枚掲載させていただきます。選にもれました方にはご協力にお礼申し上げます。今号は観光ボランティアのメンバーの1枚を紹介しています。次号からみなさんの投稿から1枚を選んで掲載します (投稿先)E-mail bwz11423@nifty.com

泉北高速鉄道 光明池駅より南へ約2km のところにある光明池「光明皇后と親鹿」のモニュメント。

光明池は、和泉市国分町において槇尾川に取水堰を設け、そこから水をひいている。国分町にある和泉国の国分寺で光明皇后が誕生したという伝説にちなんで光明池と名づけられた。みどりに包まれた落羽松の池の遊歩道は「大阪みどりの百選」に、光明池大橋は「大阪ミュージアム」に選ばれている。のんびり散歩にお勧めの場所である。



観光ボランティアお薦めスポット



商店街が 変わろうとしています

～駅前商店街ロードインいずみで“お宝発見”～

ガイド演習で歩いたロードインいずみは4月に観光ガイドをした時の終着点。「ワッ大根が安い」「タケノコも安い～」…とショッピングツアーに早変わりっ…と紹介したら、「商店街の話題もガイドネタになりますねっ」と仲間の感想…

5月のクラブ研修会の時には、旧和泉府中駅舎前に集まり歩を進める。「じーばー（地場）のお店」を通り過ぎた所で「ときめき広場」の看板を見つける。なぜかみんな細い路地奥がやたら気になる。奥に…不思議な気配を感じて「この奥、知ってる人、いませんか？」みんなざわめくばかり！…「お宝…はっけーん」[手形があるよ？南部忠平と書いてあるよ！]…「ええ場所あるやんか」「小規模集客イベントを開ける場所があるではないか」とお宝発見気分を感じました。



これが発見した
お宝ですか…
いろんなこと…
できますでー



手作りおもちゃ



バルーンアート



指体操

どんなことが
できるんですか？
ボランティアの皆さん。
応援してあげ
てくださいね



ボランティアへの期待が膨らむ駅前活性化！

「昔は大阪市内へ行かんでも大抵のものは商店街で揃いました」と語る友人たち。「昔はいろんなイベントをやりました」、「遠くからもお客さんが来てくれはって…ロープをはって交通整理に汗を流した程でした」「今では閉店したままの店が増えとります」「市のご指導でイベントやっていますが、小規模でも継続的にやっていける集客イベントができるようにしないとイケませんなあ～」と活性化に取り組む商店街の幹部談…

「ボランティアで、元気な駅前復活に役にたつんやったら協力してくれると思いますよ。」と話したら…「ホンマですかっ…」と半信半疑ながら前向き姿勢に…

駅舎のリニューアルに合わせて、和泉府中駅前の商店街に「元気を取り戻そう」の機運が生まれています。大阪ではボランティアが手掛ける「手作りおもちゃ作り」を集客イベントに組み込むための仕組みづくりを始めている商店街もある…との話もながれてきます。

和泉を知るためのお薦めの1冊①

「いずみの国生まれのコダイくんロマンちゃん」



和泉市のマスコットキャラクターのコダイくんロマンちゃんが和泉の歴史と観光案内してくれる絵本です。非売品なので市内の図書館か観光情報ステーションで読むことができます。

平成24年9月第1版発行

制作・コダイくんロマンちゃん絵本制作委員会

編集後記

和泉の国府に生まれた「JR 阪和線 和泉府中駅」が平成の今！念願だった駅前大改造となった。

和泉観光の新たな出発基地となるか？駅前はどこなるのか？商店街は昔のにぎやかさを取り戻すのか？地場産業は進出してくるのだろうか？

改札口を出た真っ白な壁はどのように生かされるのか？無機質な通路や階段は水仙花？や古代のレプリカ？で飾りつけがなされるのだろうか？

昭和から平成への移り変わり！楽しくもあり。また？？？でもある。

町づくりの難題が脳裏をかすめる。自分たちをボランティアのガイドクラブとせず？観光ボランティアクラブとした先人たちの志の高さが胸を締め付ける。

(無神無仏)